

外客誘致体制の基礎作り			
1912	明治45年	3月12日、ジャパン・ツーリスト・ビューロー創立…①	
1913	大正2年	神戸、下関、横浜、長崎に案内所開設 機関誌「ツーリスト」発行	
1914	大正3年	海外嘱託案内所を30カ所設置(関係汽船会社の 海外支店、出張所内)	
1915	大正4年	外国人に鉄道切符の受託販売開始	
1916	大正5年	ビューロー徽章(社章)制定……………②	

代売業務の拡大			
1918	大正7年	邦人へ中国方面への特殊切符を販売 代売業務の始まり	
1920	大正9年	旅行小切手による英貨、米貨の取り扱い開始	
1924	大正13年	日本旅行文化協会(後にビューローと合併)から、 旅行雑誌「旅」創刊……………③	
1925	大正14年	同じく日本旅行文化協会から、『汽車時間表』(JTB 時刻表創刊号)発行……………④	
		邦人客に一般乗車券、遊覧券の販売開始 東京、大阪のデパート内に案内所開設。以後、案 内所の市中開設が進む	
1927	昭和2年	日本初の円貨による旅行小切手を販売 「任意法人」から公益の「社団法人」に改組 会費収入を切符代売手数料収入が上回る。以後、 代売・斡旋事業が一層拡大	
1932	昭和7年	クーポン式遊覧券(鉄道と連絡の船・自動車、旅館 券などの連絡回遊券)を販売	
1934	昭和9年	日本初の円貨による旅行小切手を販売 「任意法人」から公益の「社団法人」に改組 会費収入を切符代売手数料収入が上回る。以後、 代売・斡旋事業が一層拡大	
1932	昭和7年	クーポン式遊覧券に含まれていた旅館券、船車券 を単独で販売	
1934	昭和9年	東京、大阪で切符の無料配達を実施……………⑤	
1934	昭和9年	日本旅行協会と合併。社名は両社名を併記	

戦時下の体制			
1940	昭和15年	ヨーロッパから米国へのユダヤ人避難輸送を斡旋 (社)東重旅行社に改称	
1941	昭和16年	社団法人から財団法人に改組	
1942	昭和17年	社章改定	
1943	昭和18年	(財)国際観光協会と合併。(財)東重交通社と改称	

戦後復興・体制強化			
1945	昭和20年	(財)日本交通公社(英文名 JAPAN TRAVEL BUREAU)に改称 鉄道博物館の経営受託。「交通文化博物館」として 開業	
1946	昭和21年	本社社屋建設(本造2階建て)……………⑥	
1948	昭和23年	IATA代理店として認可	
1952	昭和27年	旅行あつ旋業法施行。旅行業者登録制。 (財)日本交通公社は登録第1号……………⑦	
		「旅の絵ごよみ」誕生……………⑧	

高度経済成長下での旅行の大衆化			
1955	昭和30年	周遊券の販売。(翌年、「均一周遊券」新設)……………⑨	
1956	昭和31年	日本交通公社協定旅館連盟(公旅連)結成	
1960	昭和35年	本社ビル(交通公社ビルディング)竣工……………⑩	
1962	昭和37年	中央研修所開設。(創立50周年記念事業) 旅行商品券(64年、ギフト旅行券に改正)発売……………⑪	
		セット旅行誕生。個人旅行の商品化始まる	
1963	昭和38年	集団就職者輸送一括取り扱い 財団法人の営業部門を分離独立させ、(株)日本交 通公社設立。社章改定……………⑫	
1964	昭和39年	訪日外国人向け商品「サンライズツアー」誕生……………⑬	
		東京オリンピック開催。入場券販売総代理業務 受託	
1968	昭和43年	海外旅行商品「ルック」誕生……………⑬	
		日本通運(日通)と「ルック」の共同企画・仕入・販 売について業務提携(翌年度から実施)	
1969	昭和44年	客室自動予約システム「トリップスI」稼働	
1970	昭和45年	万国博覧会(大阪)開催。会場運営に参画 味覚クーポン誕生(本格的宿泊プランの始まり)	
1971	昭和46年	国内旅行商品「エース」誕生……………⑬	
		(株)トラバランド興業設立	

大旅行時代の幕開け			
1973	昭和48年	旅行雑誌「るるぶ」創刊 関西研修所開設(創立60周年記念事業)	
1981	昭和56年	専門学校「国際観光文化学院」設立	



①ジャパン・ツーリスト・ビューロー本部建物



②ビューロー徽章(社章)



③「旅」創刊号



④「汽車時間表」(JTB時刻表創刊号)



⑤切符配達メッセンジャー・ボーイ



⑥本社社屋(本造2階建て)



⑦旅行あつ旋業登録票1960(昭和35)年更新のもの



⑧初期の「旅の絵ごよみ」



⑨周遊券



⑩交通公社ビルディング(丸の内)



⑪初期のギフト旅行券



⑫社章改定



⑬YES JTBカード



⑭主催旅行の「サンライズツアー」



⑮「ルック」



⑯「エース」



⑰旅行券分割前払いプラン「たびたび」



⑱デパート共通商品券「ナイスショップ」



⑲本社 天王洲に移転



⑳時刻表1000号



㉑中国人向け海外旅行商品「悠逸(ユウイ)」



㉒中国人向け海外旅行商品「悠逸(ユウイ)」

1982	昭和57年	JTBオリジナルイベント「杜の賑い」第1回開催 「観光地クリーンアップキャンペーン」を実施	
1983	昭和58年	第1回旅行文化講座(旅行文化講演会と海外旅行 セミナー)開催 「YES JTBカード」発行……………⑭	
1985	昭和60年	科学万博(つくば85)開催。入場券販売管理業務 (総代理店業務)を受託 旅行券の分割前払いプラン「たびたび」発売……………⑮	
1987	昭和62年	宿泊ノーキーボンシステム「たびがる」取り扱い開始 提販店向け「たびネット」端末設置開始 デパート共通商品券「ナイスショップ」発売……………⑯	
1988	昭和63年	創立75周年記念事業「フェスタJTB75」開催 CI導入。新JTBマーク制定。社章改定。「日本交通 公社」から「JTB」へ呼称変更	
1989	昭和64年 平成元年	「ルック」の日通との提携解消。「ルックJTB」として 再発足 ジャパン・インターナショナル傷害火災保険(株)設立 保険事業に進出	
1990	平成2年	「国際花と緑の博覧会」開催。パビリオン「大地の館」 「JTBプラザ」建設	
1991	平成3年	「旅物語-JTB通信販売の旅」誕生	

低成長下の企業改革			
1992	平成4年	神戸ベイシェラトンアンドタワーズ開業 研修施設・コンピューターセンター「フォレスト」竣工	
1993	平成5年	海外両替カード「ワールドキャッシュ」発売 銀行以外で初めて米ドルトラベラーズチェック自社 発行	
1995	平成7年	第1回ホノルルフェスティバル開催 ハワイの斡旋に「OLI OLI」システム導入 旅館・ホテル共通ギフト券「新ナイスステイ」発売 旅の自動販売機「マルチメディアステーション(MM S)」をコンビニに導入	
1998	平成10年	「JTB INFO CREW」サービス開始 ユーロトラベラーズチェック発売	
1999	平成11年	宿泊プラン改定。「セレクト3000」設定	
2000	平成12年	(株)JTBベネフィット設立。福利厚生代行事業を開始 総合出張管理システム「J's NAVI for Web」販売 インターネットによる旅行会社「(株)たびゲーター」 設立 (株)ジェイティービービジネスラベルソリューションズ 設立。総合出張管理事業の本格展開 デビットカード決済、本格運用 北京に合弁会社交通公社新紀元国際旅行社有限 公司(JTB新紀元)設立。中国事業を積極的に展開 観光ビザ解禁後、初の中国人訪日観光団体を斡旋	

21世紀を迎えて 新たな時代へ			
2001	平成13年	本社を天王洲に移転……………⑲	
		(株)ジェイティービー(英文名 JTB Corp.)に改称	
2002	平成14年	「ヘア宿泊ギフト券・ナイスセレクト」販売 バリアフリー対応の主催旅行「フレイユ」発表	
2005	平成17年	愛・地球博開催。入場券販売管理センター運営の 他、多くの分野で事業を受託 「セレクト3000」と「エース宿泊プラン」を統合。「全国 エースセレクト」誕生	

新経営体制(分社化)へ移行			
2006	平成18年	新経営体制(分社化)へ移行 JCBと事業開発会社「J&J事業創造」設立	
2007	平成19年	海外ダイナミックパッケージ「NAVI」を販売 「るるぶトラベル」サイト開設 訪日外国人向け個人旅行サイト「JAPANiCAN (ジャパニカン)」オープン JCBとの共同ギフト券「ナイスギフト」販売	
2009	平成21年	海外旅行販売サイト「トルノス」オープン 「JTB旅カード」発行 「JTB時刻表通巻1000号」発行……………⑳	
2010	平成22年	「るるぶ」が発行点数世界最多の旅行ガイドシリー ズとしてギネス世界記録に認定……………㉑	
2011	平成23年	新グループブランドスローガン「感動のそばに、いつ も。」を制定 JTB新紀元、中国での中国人向け海外旅行販売の 認可を受ける。旅行商品「悠逸(ユウイ)」を販売……………㉒	
2012	平成24年	創立100周年	

※出典：日本交通公社五十年史/七十年史、ジェイティービー保管物ほか



次の100年も、いい旅を。



感動のそばに、いつも。



人をつなぎ、笑顔をつなぎ。

JTBは地球を舞台に、あらゆる交流を創造し続けます。

2012年3月、あけがまでJTBは創立100周年を迎えることができました。

www.jtbcorp.jp 「JTB100年の歩み」サイトはこれからご覧いただけます。